

研究所 所報

2020年1月 No.161

静岡はつ（発・初）

シティズンシップ教育授業実践集

～自ら考え、自ら判断し、

自ら行動する子どもたちを育てるために～



静岡県教職員組合立教育研究所

シティズンシップ教育研究委員会

目 次

巻頭言 若者と社会の関わり～これからのシティズンシップ教育を考える～	2
共同研究者 井柳 美紀	
今後のシティズンシップ教育の推進にむけて	4
共同研究者 三浦 哲司	
実践1 御殿場市をどんな市にしたい？	6
小学校3年 社会科 永井 咲季（御殿場市立御殿場南小学校）	
実践2 福祉について考えよう	12
小学校4年 総合的な学習の時間 水谷 光里（函南町立東小学校）	
実践3 わたしたちのくらしとごみ	16
小学校4年 社会科 寺田 祐基（湖西市立鷺津小学校）	
実践4 社会へ一歩ふみ出そう「未来がよりよくあるために」	20
小学校6年 国語科 中村 佳子（焼津市立大富小学校）	
実践5 みしまるくん・みしまるちゃんをいっぱい知ろう	26
小学校特別支援学級 総合的な学習の時間 横山 貴志（三島市立德倉小学校）	
実践6 お得なプランを提供しよう	30
中学校2年 数学科 河本 章衣（浜松市立曳馬中学校）	
実践7 2050年に店舗数、利益No.1のコンビニをプロデュースしよう	34
中学校3年 社会科 丹所明日香（菊川市立菊川西中学校）	
2年間の研究をふり返って	38

若者と社会の関わり ～これからのシティズンシップ教育を考える～

井柳 美紀

共同研究者 静岡大学人文社会科学部教授



若い世代の投票率低下は、近年、大きな社会的関心事となっています。2016年、投票年齢が18歳へ引き下げられ、主権者教育が始まりました。その結果、10代の投票率は20代と比較して相対的に高い数値となり、主権者教育や啓発活動が一定の効果をもたらしたとの評価も多く示されています。しかし、未だ低投票率であることに変わりはなく、低投票率の原因を問われた政治家が「主権者教育をもっと頑張るべきだ」などと発言する光景も見られました。

むろん、かたちばかりの模擬投票を行う主権者教育の普及が、投票率向上に寄与しないことは明らかだと思います。そして、そもそも主権者教育がめざすべきは投票率の向上なのではないでしょうか。むしろ本質的に大切なことは若い世代がもっと広く社会や政治に関心をもち、あるいは実際に関わっていくことであり、その結果として自らの考えをもって投票所に足を運ぶことだと思われまます。ただし、主権者教育の本来の目的が投票率の向上のみではなく、広く社会を形成する市民の育成にあることは高等学校に配布された主権者教育の教科書でも示されている通りです。

静教組立教育研究所は、主権者教育ではなく、シティズンシップ教育という言葉を用いています。両者の言葉に厳密な違いがあるわけではありませんが、シティズンシップ教育のほうがより広い概念だと言うことはできます。シティズンシップ教育とは平たく言えば、将来の市民を育てることを意味します。シティズンシップとは「市民性」を意味し、「市民であること」とも訳すことができます。要は、シティズンシップ教育は、一人の「人間」や「職業人」としてのみならず、一人の「市民」として将来社会で生きていく上で身につけるべき、知識、技能、価値などを学校において子どもたちが学ぶものです。今までも学校教育において、将来の「市民」につながる教育実践は数多くなされてきました。「自分たちで物事を決める」、「ルールについて話し合う」、「クラスの課題解決にとりくむ」などの教育実践は、いずれも市民の育成につながるものだと考えます。その意味では、シティズンシップ教育とは、従来の教育の中に新しい一科目を付け加えるものではなく、今後必要となる市民の資質とは何かという新しい一つの視点をこれまでの教育に付け加えるものだと言うことができます。

何よりも、少子高齢化、人口減少、財政縮小、地方の衰退など、過去に経験のない大問題に直面していく日本社会において、これからの「社会を支える市民」、「社会を作る市民」のための教育をどのように行うのかという視点は欠くことのできないものです。では、そのために、どのようなシティズンシップが必要なのでしょう。

今後、日本社会で求められるシティズンシップは一様ではなく、多様なかたちがあり得ますが、特に重要なことは、「社会を変えたい」「社会は変えられる」という若者の積極的な意識や態度を育てることではないかと思えます。これは、幾つかの国際比較の調査で、日本の若者に顕著に低い数値がみられるものです。政治学では「内的有効性感覚」と呼びます。実際に社会を変える、変えられるという意識や感覚は、実際に社会を変えられるか否かという現実に基づくのみではなく、実際に変えてきた経験があるかどうかにも大きく関わっており、いわば成功体験に基づく面があります。それゆえ、何かを変える体験を実際にもつことで社会を変えようとする意識や態度、

技能を得ることは、シティズンシップ教育がめざすべき一つであろうと思います。

社会を変えるための行動 action を生み出すことは容易ではありません。最近、注目した二つの事例を簡単に紹介したいと思います。

一つは、数年前の県教研で報告された環境教育に関する教育実践です。正確な記憶に基づかない点をご容赦願いたいですが、子どもたちの行動が自発的に生まれてきた興味深いものでした。美術の授業の中で行われ、「綺麗な景色を切り取ろう」「(自然の中から)綺麗なものを拾ってくる」などの課題から始まり、次第に川の汚れの問題に子どもたち自身が気づき、それは子どもたち自身が問題解決するとりくみへとつながり、さらには声をあげるとりくみへとつながっていきました。教員は側面からそのとりくみをサポートしていくものだったように思います。特徴的なことは、教員が授業の流れを敢えて決めず、子どもたちから自発的に生まれる行動や考えの流れに沿って授業が展開されていた点です。教育は意図を持って行うものですが、行動が意味をもつのは本人の自発的な意識や思いによってであり、そのような行動を生んだ点で興味深い授業実践でした。

もう一つの事例は、学校教育ではなく、地域社会においてのもので、牧之原市における対話の手法を用いた市民協働のまちづくりについてのものです。大学生たちと調査研究を行いました。まちづくりの実践において、「対話」がどのような効果をもたらすのかについて調査していく中で、「対話」から「行動」が生まれ、地域の人たちの自発的な地域づくりの行動が生まれるプロセスを垣間見ることができました。ここで重要なことは「対話」のもつ効果でした。対話は合意形成の手段とみられがちですが、この事例では、誰もが同じだけ話し・聞くという対話の場を人為的に設定し、いわば対話を対話として成立させることで地域課題をめぐる対話が、対話を行う人たちの中に当事者意識を芽生えさせ、自分自身も何かをしなければという行動への意欲をもたらし、実際の地域づくりの実践（行動）へと繋がっていきました。

これら二つに共通するのは、「当事者意識」が、自発的行動を生み出している点ではないかと思います。投票率をめぐるデータにおいても、有権者が政治を身近なものと感じる場合、投票率は高く、身近なものと感じない場合、投票率は下がります。当然のデータですが、人が日常生活から一歩外に踏みだし地域社会やより大きな社会を自分と関わるものであると捉え、当事者意識をもつことは社会に関わり、社会を変えるというシティズンシップをもつ上での第一歩だと言うことはできると思います。同時に、一見異なる行動をも受け入れる多様性や涵養さの精神もまたこれからのシティズンシップには求められるのではないかと思います。先生方が、将来の市民がどうあるべきか、いかなるシティズンシップを育てるべきかを思い描きながら教育に臨む視点こそ大切だと思います。

最後に学校の教育体制の問題について言えば、今後シティズンシップ教育を実践するにあたって求められるべきは、第一に、高等学校に限られず、小中学校の段階から体系的かつ段階的にすすめていくこと、第二に、社会科・公民科の教員のみならず、広く多くの教員がすすめていくことだと思います。シティズンシップ教育という名称であれ、そうでなかれ、これから日本が迎える厳しい時代を生き抜く市民の力をどのように育てていくか、教育に期待されるものは大きいと思います。

今後のシティズンシップ教育の推進に向けて

三浦 哲司

共同研究者 名古屋市立大学人文社会学部准教授



1 シティズンシップ教育の現在

選挙権年齢の引き下げに伴い、18歳の高校生が参議院選挙にはじめて参加した2016年7月から3年が経過しました。この間に、全国各地でさまざまなシティズンシップ教育のとりくみが展開されました。他方で、今は当時の盛り上がりはしだいに鎮静化し、かつてのようにテレビや新聞で大々的に取り上げられる機会は減りつつあるように思われます。シティズンシップ教育が「投票者教育」にとどまっているきらいもあります。

また、実際に私がこれまで東海地方のいくつかの高校で聞いた話によると、依然として当初から課題として指摘されていた内容が、解消されていない現実もあります。その課題とは、①「高校三年生は受験を控えているので、シティズンシップ教育に充てる時間を確保することができない」②「教員のあいだには、『シティズンシップ教育は社会科教員が担当するもの』という認識があって学校全体に広がらない」③「中心となる社会科教員も、『政治的中立性』に敏感となってしまう、大胆な試みに挑戦できずにそつなくこなしてしまう」の3点です。

当初は大きな注目を集めた18歳選挙権の動向でしたが、こうした課題を抱え続ける限り、若者の政治参加の状況改善は期待できないように思います。シティズンシップ教育には、単に若者の投票率の向上だけが求められるのではなく、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動するような若者を育むこと」が求められます。

2 シティズンシップ教育研究委員会での気づき

私はこの2年にわたり、シティズンシップ教育研究委員会に共同研究者として参加し、現場で活躍する所員の先生方から、数多くの実践計画の発表や実践結果の報告を受ける機会を得ることができました。そのなかで感じたのは、以下の3点です。

第一は、シティズンシップ教育には年齢に応じた積み上げおよび体系化が求められるという点です。わが国の主権者教育（シティズンシップ教育より狭い概念）は主に高校生をターゲットとしていますが、高校生の側からいわせると「急に『選挙に行け』『政治に関心をもて』といわれても戸惑う」というのが現状です。他方、所員の先生方は小学校および中学校において、子どもたちの実情に応じたシティズンシップ教育を実践していました。重要なのは積み重ねの視点と発想であり、小学校でとりくむこと、中学校でとりくむこと、高校でとりくむこと、と段階を踏んでシティズンシップ教育を体系化していく姿勢ではないかと思います。

第二は、シティズンシップ教育をクラスという少人数で展開し、子どもどうしの学び合いを促すことが重要であるという点です。現在の高校現場における主権者教育の主な形態は、学年全体を体育館やホールに集め、選挙管理委員会の事務担当者からの講話を聞かせるかたちです。学校の規模にもよりますが、何百人もが一同に会して話を聞くスタイルでは、どうしても一方的な学びとなってしまう、生徒どうしの対話による気づきは生まれません。しかし、所員の先

生方はいずれも小・中学校のクラス単位でシティズンシップ教育を実践し、その実践は、子どもたちの学び合いや支え合いを重視したものでした。私もさまざまな高校に出向き、主権者教育の実践を見てきましたが、生徒たちにとって最も有効なのは、「少人数での対話を中心とした学び合い」であると確信しています。

第三は、何も社会科に限らず、あらゆる科目でシティズンシップ教育は実践可能となるという点です。上記のとおり、高校現場の多くでは、主権者教育が社会科教員の仕事として捉えられている現状があります。しかし、政治教育だけでなく、司法教育や消費者教育などを含むシティズンシップ教育に関しては、さまざまな科目においても実践が可能であると思います。実際に、所員の先生方は社会科だけではなく、国語、数学、家庭科などにおいて、子どもたちどうしの対話とフィールドワークを重視したシティズンシップ教育を実践しており、いずれも示唆に富む内容でした。

3 今後の展望

とはいうものの、シティズンシップ教育に関しては、全国的には依然として試行錯誤の状況が続いており、その広がりには十分とは言えないと思います。そこで、ぜひとも所員の先生方には、2年間の研究を踏まえ、勤務校においてシティズンシップ教育の実践を継続してもらいたいと思います。同時に、所属単組・支部等で成果の発信と共有を担ってもらいたいと願っています。今後のシティズンシップ教育において重要となるのは、教える側の教員どうしも学び合う視点をもつことではないかと思えます。そうでなければ、シティズンシップ教育の広がりには期待することは難しいと思えます。

また、シティズンシップ教育というとハードルが高いように思われがちですが、実はすでに実践していることの多くが、シティズンシップ教育として捉え直すこともできます。研究委員会で講演を聞いた原田謙介さんが「既存のとりくみを価値づけること」の重要性を指摘していたように、何か新しいことを始めるのではなく、すでにとりくんでいる試みを、シティズンシップ教育として捉え直してみるといった姿勢が広がっていけば、わが国のシティズンシップ教育もいっそう広がり、自ら考え、自ら判断し、自ら行動するような若者がより多く育まれていくように思われます。

最後に、毎回の委員会で豊富な示唆に富んだ報告を行なってくださった所員の先生方、および運営に尽力された事務局の各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

御殿場市をどんな市にしたい？

国や社会を創る主役や担い手となるためには、身近な出来事や問題などを『自分ごと』として捉えることが大切であると思いました。様々な課題に対して、自分の考えを持ち、他者と伝え合うことを通して、相手の立場や多様性を尊重するということを学べると考えます。3年生の子どもたちにとって、身近な自分たちの住んでいる市を題材とし、市の発展を考えることを通して、市民の一人としての自覚を養おうと考えました。

◇ 授業の具体

社会科学習指導案

指導者 永井 咲季（御殿場市立御殿場南小学校）

1 単元名 「市の様子の移り変わり」

2 単元目標

- 御殿場市の移り変わりについて、交通や土地利用、生活の様子、人口、公共施設などの時期による違いに着目して、見学や聞き取り調査をしたり地図などを活用したりして調べ、年表などにまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、時期ごとに比較・関連付けて考え説明することを通して、市や人々の様子は時間の経過に伴い移り変わっていたことを理解できるようにする。
- 市や人々の生活の変化について学習問題を意欲的に追究し、市の発展について市民の一人として考えようとしている。

3 単元計画

時	学習活動	資料・史料	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> 御殿場駅の昔の写真と現在の写真を見て気付いたことや、疑問を話し合っ、単元の学習問題を作る。 御殿場市はどのようにうつりかわったのだろうか。 	『御殿場南小50周年記念誌 誠実』 『御殿場・裾野・小山今昔写真帖』	態
2	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を予想して、単元の学習計画を立てる。 予想を5つの観点「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」で分類し、学習の見通しをもてるようにする。 		態
3	<ul style="list-style-type: none"> 年表を見て御殿場市の移り変わりを調べ、問いを持つ。 年表に「交通（青）」「公共施設（緑）」「土地利用（ピンク）」「生活の道具（黄緑）」で線を引きながら調べる。 	副読本『ふるさとごてんば』	態

4	<p>●御殿場市の人口のグラフを見て市役所で聞いてみたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ平成27年は人口が減ったのか。 ・なぜ平成22年までは人口が増え続けているのか。 	<p>人口推移の棒グラフ 御殿場市統計書平成29年度版</p>	<p>知技</p>
5 ～ 7	<p>●市役所と市議会へ見学に行って、質問をする。</p> <p>●見たこと・聞いたことを発見カードにまとめる。</p> 	<p>御殿場市役所 魅力発信課</p>	<p>態 知技</p>
8 ～ 10	<p>●生活の様子の変化について調べる。</p> <p>○昔の道具はどのように進化して今の道具になったのだろう。</p>  <p>○交通の変化…馬車道鉄道廃止、御殿場線、バス、東名高速道路</p>	<p>『御殿場線物語』 昔の道具（御殿場市の収蔵庫より貸借）</p>	<p>思判表</p>
11	<p>●御殿場市の移り変わりをマイ年表に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通、公共施設、土地利用 ・年表を完成させ、現在、未来へ目を向ける 	<p>『ふるさとごてんば』 『御殿場・裾野・小山今昔写真帖』 御殿場資料館 今昔マップ</p>	<p>知技</p>
12	<p>●人口を増やすために、市はどんなことをしてきた（している）のだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所のとりくみを調べる。 	<p>御殿場市役所 魅力発信課 広報ごてんば</p>	<p>思判表</p>
13	<p>●御殿場市は、○○にとって、暮らしやすい市といえるか考える。</p>	<p>家の人へのインタビュー 市民の意見書</p>	<p>思判表</p>
14 ～ 16	<p>●御殿場市は、これからどのような市を目指していったらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の方に、自分たちの意見をまとめて伝える。 	<p>第四次御殿場市総合計画 御殿場まち・ひと・しごと創生ビジョン</p>	<p>態</p>

4 本時の指導（15 / 16）

（1）本時の目標

市や人々の生活の変化について学習してきたことを生かしながら、市が将来どのようなってほしいかを伝え合うことを通して、市民の一人として、市の発展を考えようとする。

(2) 指導過程

段階	教員の働き掛け・予想される子どもの反応（形態）	（支）支援 *留意点 （評）評価
<p>つかむ</p> <p>追究する</p> <p>つなげる</p>	<p>1 課題をつかむ。（全体）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どんな市にしたい？</p> </div> <p>2 課題を解決する。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>らくらく べんりな市</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>安心な市 安全な市</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>自然が多い 市</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>にぎやか 楽しい市</p> </div> </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>全部自動で家 にいて、注文 したら何でも 届くのがいい な。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>台風 19 号が こわかった から、安全 なまちがい いな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>きれいな富 士山や森を 大切にした い。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>タピオカの 店がある と、たくさ ん人が来る と思う。</p> </div> </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>スーパーマ ーケットを増 やしたい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>交通事故が ない市にし たい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>生き物が住 める市にし たい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>遊園地が ほしい。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>そんなに来すぎて もこまるから、し ずかな市がいい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>たくさんの人に きてもらえる市 がいい。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>でも、それを見 てたくさん人が 来たら自然がこ わされてしま うかもしれない よ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>市役所もイン スタグラムを やっていると言 っていたから、 映える写真を アップすれば よいと思う。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>やっぱり事故 がなく、安心 して暮らした い。</p> </div> <p>3 まとめをする。（全）市役所の方に伝えること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>① 安心 ②べんり ③自然がいっぱい</p> </div> <p>4 振り返りをする。（個）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自然が多いだけでなく、安心して らせる市がいい。</p> </div>	<p>* これまで使用してきた資料や年表を手元に用意したり、教室に掲示したりして、根拠を持って話せるようにする。</p> <p>* 意見を褒めつつ、理由を聞き返す。</p> <p>（支）途中で話し合っている内容がわからなくなってしまうCのために論点を整理する。</p> <p>* 考えに「ズレ」が出た時は、学級全体に問い返す。</p> <p>* 話合いで出た中で、一番大事にしたいこと（優先度の高いもの）は何かを問う。</p> <p>（評）市民の一人として市の将来を考えようとしている。 （発言内容、ノート）</p> <p>* 発言がない子は、教師が個別に声を掛けるなどして評価する。</p>

5 授業記録

教員の働きかけ	子どものあらわれ
<p>どんな市にしたい？</p> <p>じゃあ、御殿場に人が来てくれなくてよい？</p>	<p>・・・(前略)・・・</p> <p>A 富士山ストアを作りたい。観光客は富士山を見に来るから。 全体 あ～それいいかも。</p> <p>B 観光客を増やしたい。今は静かな市だからにぎやかにしたい。 C 観光客を減らしたい。 D 観光客はお金をかけてわざわざ外国から来てくれているのに失礼。 E だけど…！観光客が来たらゴミが増える。 全体 あ～ F 観光客のほとんどは、バスで来るからバスの中で、ガイドさんがルールを言えばよいと思う。</p>
<p>Lさんは都会の方がいいのだよね？</p>	<p>・・・(中略)・・・</p> <p>G 富士山をもっときれいに見えるようにしたい。 E だけど、今でも十分きれい。 H 自然のままでいい。 I 高い建物や派手な色の建物がないから、今のままでいい。 J ビルは富士山が見えなくなる。 K 大きいビルは富士山が見えなくなるから建てない方がいい。 I 都会じゃなくて、自然のイメージをこわしたくない。</p> <p>・・・(中略)・・・</p>
<p>みんなってだれ？</p> <p>思いやりって市役所の方はわかるかな</p>	<p>K みんなが学べる市にしたい。子どもも大人も知らないことが多いから。 全体 市民 お母さん、お年寄り、働いている人、外国人 ・・・(中略)・・・</p> <p>M 思いやりと親切の市にしたい。一人一人が意識すればもっときれいになる。 E 思いやりというか、英語を使って外国の人にわかるようにすればいい。アウトレットにある案内板みたいの。 A ガイドをつける。親切にする。</p> <p>・・・(中略)・・・</p>
	<p>N 人気で流行っている市にしたい。 O そのままでいい。お客さんが来てないわけじゃない。 I 静かで自然が多いイメージを守りたい。たくさんお客さんが来たらごみを捨てられちゃう。 P つけたし。富士山をゆっくり見たい人に迷惑。 F Lさんに質問、なんで静かなのがいいの？ L 御殿場は静かで落ち着くから。 Q でもさ、もっと人を増やしたい。他の国の人は富士山がきれいでもまた来たいと思っている。 D 夜、寝ている時に観光客の声うるさかった。 R 住んでいる外国人もいるから別に来てもいいと思う。 D いろんな意見を聞くと迷うなあ・・・ M 来てほしい。段々日本の文化に慣れてくると思う。 I ルールを守ってもらえばいい。</p> <p>・・・(後略)・・・</p>

6 授業の成果と課題

子どもたちは、課題を「自分ごと」として捉え、生活の中の事実を根拠に発言し、生き生きと自分の考えを表現した。市役所の魅力発信課の方に手紙を書くというゴールがあったことで、議論に切実感が増した。

本時の課題は、①物事を複数の立場や考え方で広い視野からとらえることができる、②物事を自分に引き寄せて具体的な事実を根拠にして考えられる、③物事の課題の解決を考えたり未来を発展的に考えたりできる、という視点で設定した。さらに子どもたちが学びを深めるためには、少数の意見も大切にしながら、時間を掛けて討論していくことも大切であると感じた。

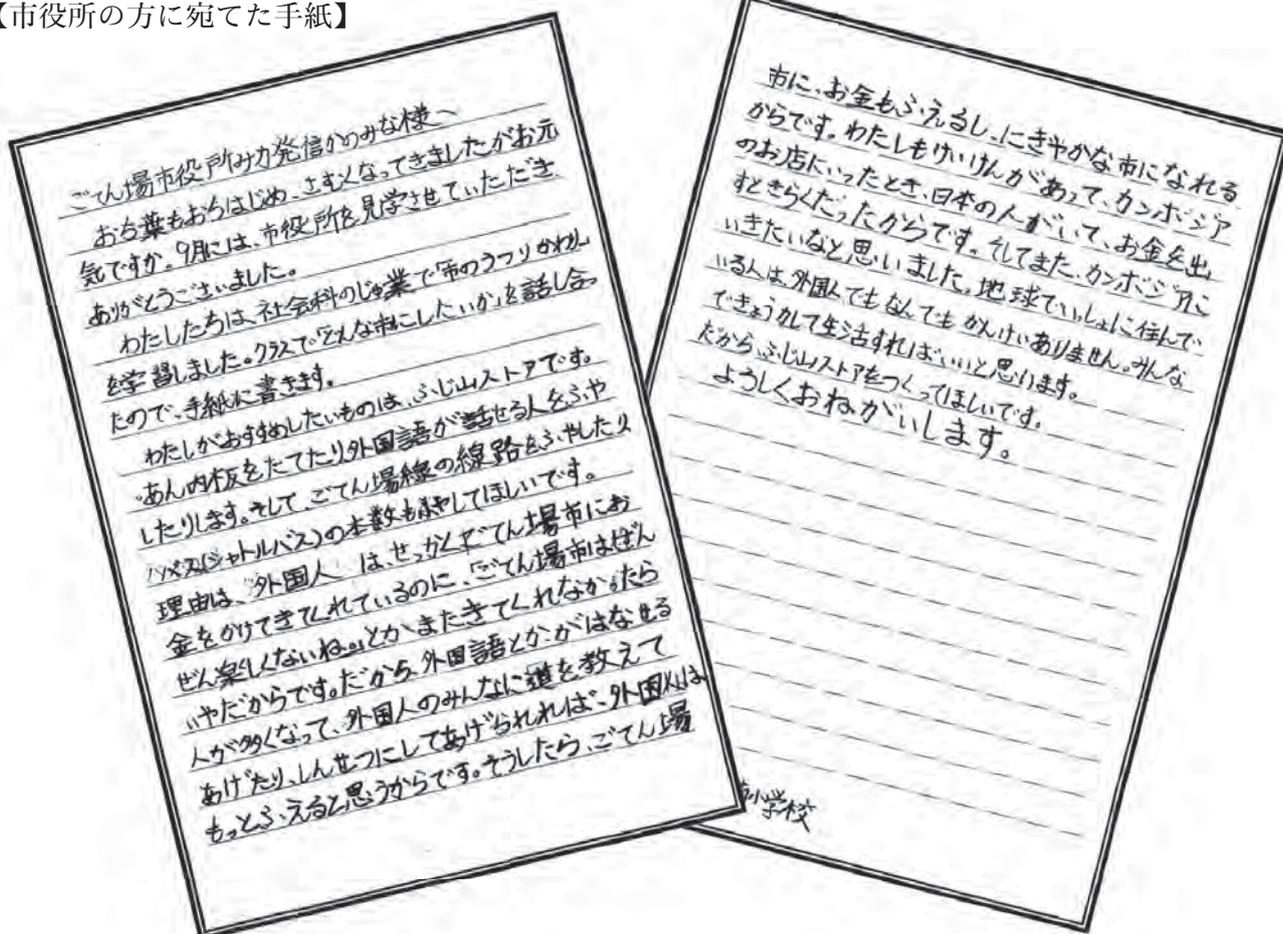
課題としては、観光客を歓迎するか否かという議論になったときに、教員が出て外国人との共生の大切さを触れる必要があったと考える。シティズンシップ教育のキーワードである『多様性を尊重する』ことを日々の授業の中で多様な意見を尊重しながら育てていきたい。

7 資料等

話し合いを重ねて決まった
市役所に伝える事柄

- ①富士山ストアを作る
(外国人観光客を増やす)
- ②交通事故のない市にしたい
(歩道、街灯、ガードレールを増やす)
- ③みんなが学べる市にしたい
(大きな図書館、博物館)

【市役所の方に宛てた手紙】



《参考文献・資料》

- ・澤井陽介『澤井陽介の社会科授業デザイン』東洋館出版社2015年
- ・澤井陽介『小学校新学習指導要領社会の授業づくり』明治図書2018年
- ・由井蘭健『由井蘭健の「深い学び」をつくる社会科授業 3年』東洋館出版社2019年
- ・澤井陽介編『見方考え方を働かせて学ぶ社会科授業モデル3・4年』明治図書2019年
- ・香川県教育学部附属坂出小学校 第100回教育研究発表会 指導案・提案資料
- ・徳島県鳴門教育大学附属小学校 研究協議会資料 平成30年2月8日
- ・武藤由希子「横浜市の様子の移り変わり」『初等教育資料』2019年4月号

◇ 2年間の研究をふり返って

昨年は6年の家庭科、今年は3年の社会科で実践しましたが、シティズンシップ教育は、どの教科でもできるものであると感じました。2年間、シティズンシップ教育研究会に参加させていただき、社会を創る市民を育てるには、まず、身の回りの様々な問題を『自分ごと』として捉えられるような授業を構成することが大切であると学びました。

福祉について考えよう

本校では4年生の総合は、福祉をテーマに学習をしています。幼児や高齢者との交流、アイマスクや点字の体験、目や耳に障害のある人の講話などを通して、福祉とはどういうことなのかを考え、その後テーマを決めて調べ学習を行っていきます。

身の回りには様々な立場の人がいることを実際の出会いや体験を通して「自分ごと」として感じ、これからどのように他者と関わっていくか考えることは、シティズンシップ教育にもつながると考えました。

◇ 授業の具体

総合的な学習の時間指導案

指導者 水谷 光里（函南町立東小学校）

1 函南町立東小学校の総合的な学習の時間

3年生「函南町大発見」 函南町の特産品・自然・文化財・温泉

4年生「福祉について考えよう」 ユニバーサルデザイン・交流活動

5年生「もしもの時にどうする？」 防災キャンプ・地域の安全

6年生「未来を見つめよう」 キャリア教育 自分の将来について

2 単元名 福祉について考えよう

3 単元の目標

<知識・技能>

- ・図書やインターネットを利用したり、インタビューをしたりして、必要な情報を収集することができる。
- ・いろいろな立場の人が使いやすい施設や道具の工夫について理解することができる。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・身近なところから課題を発見し、設定することができる。
- ・目的に応じた方法で情報を集めることができる。
- ・集めた情報や、体験したこと、他教科で得た知識を関連づけて考えることができる。
- ・相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。

<学びに向かう力・人間性等>

- ・課題の解決に向け、主体的・協働的に活動しようとする。
- ・自分の生活のあり方を見直し、みんなが幸せに暮らすために自分ができることを実践しようとする。

4年総合的な学習の時間 年間指導計画

第一次	<p>福祉ってなんだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函南町福祉協議会の方のお話（「福祉」とは・ユニバーサルデザイン） ・高齢者との交流（デイサービス訪問） ・体験（アイマスク・高齢者・点字など） ・目の不自由な人のお話 ・耳の不自由な人のお話 ・幼稚園の子どもたちとの交流 ・パラリンピックについて
第二次	<p>福祉についてもっと調べよう</p> <p>テーマを決めよう → 自分のテーマについて調べ学習 （本・インターネット・インタビューなど）</p>
第三次	<p>福祉について発表しよう</p> <p>調べたことを発信する方法を考える。→まとめ・発表 ※調べたことを発表するだけでなく、これから自分が周囲の人とどう関わっていくか、どんなことができるか考えられるようにする。</p>

4 幼稚園の子どもたちとの交流について

(1) 目標

幼稚園の子どもたちとの遊びを計画し実際に交流することを通して、小さい子との関わり方を考えたり、感じ方の多様性に気付いたりすることができる。

(2) 指導過程

①幼稚園交流会の計画を立てよう。(2時間)

- ・事前リサーチ
- ・グループごとの話し合い→計画書
- ・遊びの準備

事前リサーチをしよう。

- ・妹や弟に聞こう。
- ・小さい頃に好きだった遊びを家族に聞いてこよう。

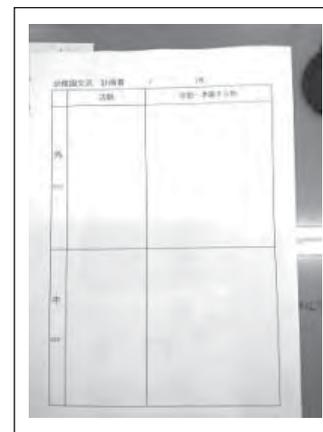
グループで遊びの計画を立てよう。

- ・全体 5分
- ・外遊び 20分 7グループ
- ・中遊び 20分

(全体で話し合い)

- ・みんなでパプリカを踊りたいな。
- ・ソーラン節がいいよ。
- ・音楽発表会で演奏した曲をリコーダーで演奏したい。

↓
パプリカなら幼稚園の子たちも踊れるかな。



(グループで話し合い)

- 外遊びは鬼ごっこをやろう。
 - 4年生はちょっと手加減して走ろう。
 - 砂遊びならいっしょに楽しくできる。
 - リレーが好きだって言っていたから、リレーをやろう。
 - 20分でいくつかの遊びができるかな？
-
- 中遊びは読み聞かせがいい。
 - それぞれ自分の好きな本を読んでもいいんじゃない？
 - それじゃあ交流にならないよ。
 - 図書室で紙芝居を選んでこよう。
 - 塗り絵を自分たちで作って、色塗りしてもらおう。

遊びの準備

②幼稚園交流会（1時間）

- 交流会の実施

1 あいさつ

- 一緒にパプリカを踊る
- グループの顔合わせ



2 外遊び（20分）

鬼ごっこ・けいどろ・リレー・砂遊びなど



3 中遊び（20分）

折り紙・紙芝居・絵本の読み聞かせ・塗り絵・お絵かきなど



③振り返り（1時間）

- ・交流会の反省
- ・これからに生かせそうなこと

<子どもの感想より>

- ・最初、どういうふうによればいいのかわからなかったけど、だんだん慣れていって楽しかったです。
- ・小さい子は言うことをあまり聞いてくれないから、ちょっと大変でした。
- ・幼稚園の子どもたちは、手をつないで案内をしてあげると、落ち着いて行動ができていたし、満足そうにしていたからよかったです。やさしく、同じ目線になるようにしゃがんであげたらいいと思いました。やさしい声で接してあげるといい。
- ・ペアの子と折り紙をやったときに、やさしく笑顔で接したりするとちゃんと言うことを聞いてくれて、やっぱり自分が安心した信頼できる人にはなつくんだなと思いました。
- ・楽しいと表情に出していた子もいたけど、出してなくても心の中では「楽しかった」って言っていた子もいた。
- ・みんな人それぞれ好きなものがちがって、外遊びが好きな子もいれば中遊びが好きな子もいた。

5 授業の成果と課題

- ・直接幼稚園の子どもたちと関わる活動を設定したことにより、「自分ごと」として事前のインタビュー、計画・準備をグループで協力しながらすすめることができた。
- ・交流体験を通して、これから小さい子と関わっていくときにはどのように接したらいいか、考えることができた。
- ・「幼稚園の子」にもいろいろな違いがあることに気付き、多様性を感じることもできた。

（単元全体を通して）

- ・福祉とは何かを、体験や講話を重ねて考えていくことで、子どもたちが自分の関心のあるものをスムーズに見つけることができたように思う。
- ・今後、自分のテーマをさらに詳しく調べていくが、調べたことを発表するだけでなく、自分の今後の生き方や自分の住む町について考えられるようにしていきたい。

◇ 2年間の研究をふり返って

「シティズンシップ教育」という言葉すら初めて聞いたという状態からスタートし、この2年間で大学の先生の講話や様々な実践を聞く機会をいただきました。その中で、シティズンシップ教育が求めるものと、新学習指導要領でねらっていることはとても関わりがあり、シティズンシップ教育は全く新しいものではなく、ここ数年で自分たちがやっている教育実践とリンクすることが多々あると感じました。特に総合的な学習の時間でねらうものは大きく関わると思っています。

今後も、シティズンシップ教育の視点をもって、様々な授業にとりくみたいと考えています。

わたしたちのくらしとごみ

廃棄物の処理に関する問題は、わたしたちの生活と深く関わっています。シティズンシップ教育の定義の中の「国や社会の出来事や問題を自分のこととしてとらえ」ということにおいて本単元は、子どもたちにとって身近な問題であり、子どもたちは「自分ごと」として捉えることができると思いました。持続可能な社会を実現するためにも、自分たちの未来に関わるこの問題について、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する能力を育むことが大切だと考えました。

◇ 授業の具体

社会科学習指導案

指導者 寺田 祐基（湖西市立鷺津小学校）

1 単元名 わたしたちのくらしとごみ

～わが家のごみゼロリーダーとなってごみ減量プランを考え、実行しよう～

2 単元目標

○地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用などのとりくみに協力しようとする。

【関心・意欲・態度】

○ごみ処理について、市の活動や人々の努力、自分たちの生活と関連付けて考え、わかりやすくまとめたり説明したりできる。

【思考・判断・表現】

○地図や統計、パンフレットなどの資料を活用し、ごみ処理にかかわる対策や事業について必要な情報を集め、読み取ることができる。

【技能】

○健康な生活を維持向上するため、市や地域の人々の決まりに基づいた活動により、効率よくごみの処理が行われていることがわかる。また、資源を再利用する必要性やその意味を生活に関連付けて理解することができる。

【知識・理解】

3 本時の指導（8／9）

（1）本時の目標

自分の家のごみ処理の課題の解決策を考え、わが家のごみ減量プランを立てることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 学習活動

学習活動	○支援 ・留意点 評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わが家のごみ減量プランを立てよう。</p> </div> <p>2 自分の家の課題を解決するためにどんなことができるか考え、ごみ減量プランを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの家は、ペットボトルを多く捨てているので、ペットボトルの飲み物は買わずに、水筒を持っていくようにする。 ・燃やせるごみを減らすために、買い物袋を持って行ってレジ袋をもらわないようにする。 <p>3 立てたごみ減量プランをグループで検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捨てる生ごみを減らすために、食べ残しをしないようにしたり、生ごみ処理機で肥料に変えたりしたいと思います。 ・他にも生ごみを捨てるときには、水気を切るとごみの量が少なくなるよ。 <p>4 湖西市役所廃棄物対策課の方の話を聞く。</p> <p>5 友だちのアドバイスを聞いたり湖西市役所廃棄物対策課の方の話を聞いたりして、自分の家でとりくむことを3つ以内にしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちからアドバイスしてもらったことを、自分の考えに取り入れよう。 ・市役所の方が、燃やせるごみの中にもまだ資源物が混ざっていると話していたので、もっと細かく分別するようにしよう。 <p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の家の課題に合った解決策を考 えることができたので、作成したごみ 減量プランをもとに実行したい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起できるように、写真やグラフ等を掲示しておく。 ・ゲストティーチャーの紹介をする。 ・児童一人一人が「わが家のごみゼロリーダー」となることを伝え、本時の学習への意欲を高める。 ・実行可能なごみ減量プランを立てるように声を掛ける。 ・ゲストティーチャーとして来ていただいた湖西市役所廃棄物対策課の方にも、子どもたちがごみ減量プランを考えている様子を見ていただき、アドバイスをしていただくようにする。 ・事前に同じ課題をもつ児童同士でグループを作っておく。 ・友だちの減量プランを聞いて、他にもとりくめそうなことをアドバイスするように声を掛ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と社会とのつながりを感じられるように、ゲストティーチャーに児童のプランを聞いた感想を述べてもらおう。また、湖西市のとりくみと方向性の合っているプラン考えた子を紹介してもらおう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ごみ減量プランを立てられた子には、実行可能なごみ減量プランになっているか考えるように声を掛ける。 ○解決策が見つからない子には、前時までに配付した資料を見て、今までの学習を思い出すように声を掛ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑧ 自分の家の課題を解決するための具体的な方法を考えている。 (ワークシート)</p> </div>

4 授業の成果と課題

(1) 成果

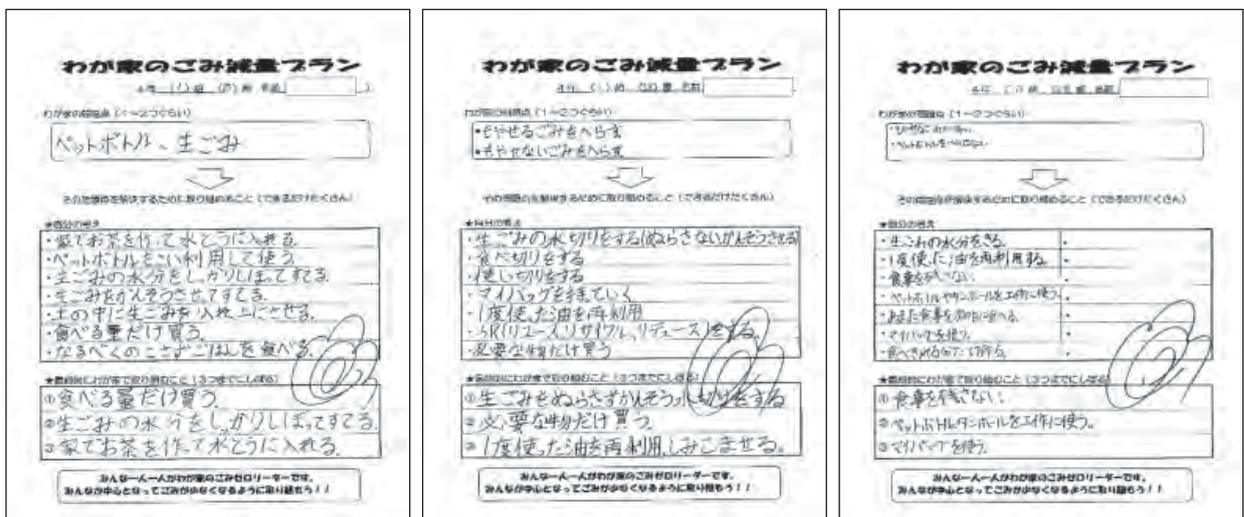
- ・「わたしたちのくらしとごみ」という子どもたちにとって身近な単元で実践をしたため、多くの子がごみ処理に関する問題を自分ごととして捉え、考えることができた。
- ・ゲストティーチャーとして湖西市役所廃棄物対策課の方をお招きして、湖西市のごみ処理の現状、子どもたちにお願したいこと、ごみゼロリーダーとして期待しているということ話を話していただいたため、「考えたい」という思いを強くもった子が多かった。
- ・学習前と学習後（ごみ減量プランの実践）の2回ごみ調べを行い、比較した結果、多くの子が学習後のごみ調べの方がごみの量が減ったことがわかり、自分から行動することの大切さに気づくことができた。

(2) 課題

- ・ごみ処理に関する問題を多くの子が「自分ごと」として捉えていた一方で、自分の家はどんなごみが多いのかわからなかったり、ごみ調べを家族に任せたりしていて、「自分ごと」として捉えられない子が数名いた。そのような子に対して、効果的な声かけや支援ができなかった。単元の導入において、このままごみを出し続けると社会がどうなってしまうのかわかるような、子どもたちにとってインパクトのあるような資料が必要であった。
- ・各家庭の状況が様々であり、ごみの内容もプライベートなものであるため、深く踏み込むことが難しいと感じた。
- ・雑紙やペットボトル、空き缶、食品トレーなどは、正しく回収すればごみではなく資源物としてリサイクルされるということを正しく理解できておらず、正しく分別した結果、ごみが増えてしまったという感想をもった子がいた。授業において、正しい知識を身に付けさせたり、ごみ調べワークシートを工夫したりするべきであった。

5 資料等

(1) 児童が作成したごみ減量プラン



(2) 児童のふり返り

<p>○夏休みに行ったごみ調べと比べて</p> <p>自分でやらすようにしたので、ていねいなごみ調べからもうすよ うにしてこのけがよりもう少しできれいかなと思います。あつ つなりのりけが、家族にごみをやらしてほいようにつたえろな ご自分でできるかざりのことをしてこれらごみをして</p>	<p>○夏休みに行ったごみ調べと比べて</p> <p>わたしが一番へらしたからペットボトルがへって よかったです。親にも相談してこんなに変化が あってうれしいです。</p>
<p>⇕</p> <p>○1週間ごみ減量プランを実行してみた感想</p> <p>もやせるごみとかかたや、ほいりし食品、ムダなものでこれらもつかけ てごみをつらしたいです。でも空気がよくなってはたのしみです。おまけ をつけていきたいです。そのほかのゴミも減らしたくて夏休みより つたえろと思います。わたしがよくごみをつたえろは、ゴミを少なくする にはした。</p>	<p>○1週間ごみ減量プランを実行してみた感想</p> <p>全体的にもへって、とくに、そんを むずかしは なかつたから、これからも少しづつごみをへらし たいです。</p>
<p>○夏休みに行ったごみ調べと比べて</p> <p>一回目は60ぐらいのゴミの量だったけど夏休みのゴミ調べに 比べて19になった。あまりマイバックや工作に使う物は あまりでなかつたけど食事を残さないようにがんばった。 か回目より夏休みに行ったゴミ調べの方が少なくなったのは 一回目より少くしようとしたからだと思いました。</p>	<p>○夏休みに行ったごみ調べと比べて</p> <p>もやせるごみが1ぶくろへた。 空きかんが4本へた。 ペットボトルが2本へた。 食品トレーが6まいから3まいへた。 家庭から出たごみが全てへりました。 へた理由は、家族全員が取り組んでくれたから だと思っています。</p>
<p>○1週間ごみ減量プランを実行してみた感想</p> <p>夏休みにくらべてゴミは少なくなっていると思います。あま り食事を残さなかつたと思います。マイバックを使うのを うすれていたりペットボトルダシホールもわすれてしま うことあったので、これらもゴミ調べが終わってからかかん けりたと思います。その他のゴミも夏休みにや、(ゴミ調べより もつたえろな、といいです。</p>	<p>○1週間ごみ減量プランを実行してみた感想 (家でかいてる)</p> <p>必要なものだけ買つたらもやせるごみが1ぶくろへ たのでこれらも必要なものだけ買つようにした です。マイバックもこれらも使うようにした いです。</p>

児童のふりかえりから

- ・ごみ減量プランを実行したら、ごみが減って良かった。
- ・これらも、ごみが減るようにとりくみを続けていきたい。
- ・家族にもごみ減量プランを伝え、一緒にとりくむことができた。

◇ 2年間の研究をふり返って

私は、昨年と今年、2年間社会科で実践しました。社会科は、シティズンシップ教育と直接的に関わる部分が大きく、授業の中にシティズンシップ教育の視点を取り入れやすいと感じました。単元の導入時で、子どもたちに問題意識をもたせるために工夫したり、単元のまとめ方を工夫したりすれば、シティズンシップ教育の視点を取り入れた授業になるのかなと思いました。

また、他の所員の実践報告を聞き、どの教科でもシティズンシップ教育の視点を取り入れた授業にとりくめることがわかりました。今後は、社会科に限らず、様々な教科で実践を重ねていきたいと思っています。

社会へ一歩ふみ出そう 「未来がよりよくあるために」

社会が大きく変化し、多様な考え方をもつ人たちと共に生きていく子どもたちにとって様々な考えを聞き合いながらお互いに折り合いをつけ、共に関わりながら生きていく力はますます必要とされています。

そこでこの単元では、よりよい未来のために自分に何ができるかを考えることを通して、主体的に社会と関わろうとする態度と、互いの考えを聞き合い、互いの考えを理解し合うことのできる聞き手・話し手となるための力を育てたいと考えました。

◇ 授業の具体

国語科学習指導案

指導者 中村 佳子（焼津市立大富小学校）

1 単元名 社会へ一歩ふみ出そう 「未来がよりよくあるために」

2 単元目標

- ・「未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、友だちとの話し合いを踏まえ、自分の考えを書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・お互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる。 【話すこと・聞くこと】
- ・自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える文章を書くことができる。 【書くこと】
- ・書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書く。

【伝統的な言語文化と国語の特質】

3 単元構想

	時	本時の目標	学習活動
		戦争について知り、平和な世の中と比べながら平和について考えようとする。 【関心・意欲・態度】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">戦争を体験した人のインタビュー記事を読み、それについて自分が感じたことを作文に書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争している時代がどんな様子だったのかを知る。 ・今の世の中と対比させながら平和について考える。
第一次	1	学習課題を設定し、学習計画を立てるとともに、学習の見通しをもつ。 【関心・意欲・態度】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">単元の計画を立てよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を見通して「話し合うこと」「調べること」「書くこと」の段階を知り、単元のイメージをもつ。 ・資料「平和のとりでを築く」を読む。

	時	本時の目標	学習活動
第一次	2	「平和のとりでを築く」を読み、自分はどんな未来にしたいのかを考える。 【関心・意欲・態度】	<p>資料「平和のとりでを築く」から、戦争の悲惨さや人々の思いと行動、筆者の主張を読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文末表現に着目し、事実と意見を区別して読む。 ・筆者の主張に対する自分の考えをもつ。
第二次	3	友だちとの話し合いを参考にしながら、「平和な未来」とはどのような社会なのか、考えを話し合う。 【話す・聞く】	<p>「平和な未来」とは、どのような社会なのだろうか。そのために自分ができることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにブレインストーミングをする。 ・大切だと考えるキーワードを挙げ、なぜ自分はそのように考えたのか根拠を示しながら話し合う。
	4 ・ 5	考えの根拠となる情報を、書籍やインターネットなどの資料から探し、書くことができる。 【書く】	<p>自分の意見を支える効果的な資料を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館、インターネットなどから自分の主張の根拠となる資料を探し、必要な情報を選択する。
	6	資料のCDを参考にし、より深まる話し方の方法を知る。 【話す・聞く】	<p>話し方や質問の仕方の例を参考にしながら、自分の意見とその根拠、予想される反論をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの仕方のCDを聞き、話し方や質問の仕方を知る。
	7 本 時	自分の意見とその理由をわかりやすく述べるとともに、友だちの発表に対して質問や助言を入れて話し合うことができる。 【話す・聞く】	<p>グループで自分の意見とその理由を発表し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を使って、友だちへの質問、助言を考える。 ・主張の根拠を明確にしたり、それを揺さぶる反論を話し合ったりする。

	時	本時の目標	学習活動
第三次	8	教科書の意見文を参考にし、自分の意見文の構成を考える。【書く】	<p>意見文を書くための構成を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初め〔自分の意見〕、中〔根拠となる資料・予想される反論とそれに対する考え〕、終わり〔まとめ〕に分けて考える。 ・根拠となる文や図表等をもとに構成を考える。
	9	調べたことを活かし、注や引用などを用いて、意見が説得力をもつように書く。【書く】	<p>説得力を持たせる（心を動かす）ためのひみつを見つけ、自分の意見文に取り入れよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を挙げたり資料から引用したりして、自分の意見をわかりやすく説明する。 ・予想される反論とそれに対する考えを書く。
	10	書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら、意見文を書く。【伝国】	<p>構成表をもとに、意見文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」「終わり」に自分の意見を重ねて書く。 ・事実と自分の考えを区別して書く。
	11	意見文を読み合い、効果的な表現の仕方を見つけ伝え合う。【書く】	<p>意見文をグループで読み合い、お互いによいところを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい事例や説得力のある書き方など、考えがより伝わる工夫を見つけて伝え合う。

4 本時の指導（7／11）

（1）本時の目標

「平和な未来」にとって必要なことや自分にできることを発表し合い、自分の意見と比べたり友だちに対する質問や助言を伝えたりすることを通して、より説得力がある意見文にするための話し合うことができる。【話す・聞く】

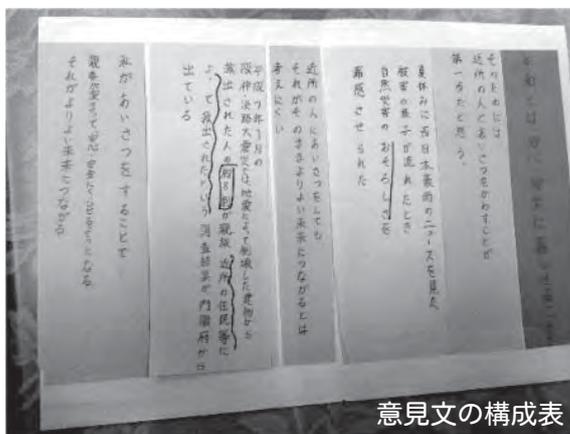
(2) 指導過程

	学習活動	手だて・評価
おさえる	<p>○話し合いのすすめ方を確認する。</p> <p>㉞ 平和な未来にするために必要なこと何か、自分には何ができるのか、自分が考えたことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒にいること 平和に家族と一緒に過ごせるということ。そのためには家族と過ごす時間を増やしたり自分から関わりを増やしたりしていきたい。 ・安心・安全に暮らせること 平和とは安心安全に暮らせること。今年は特に自然災害の被害が多かったので対策が必要。だから自分は地域の防災訓練にすすんで参加したり防災用品を準備したりしたい。 ・食料があること 平和とは食べ物があること。だから自分は食べ物を大事にしたいし、食べ物を無駄にしないように自分の食生活を見直したい。 ・環境問題 地球環境の悪化で温暖化などの問題が起こっている。だから自分は、ゴミの分別をしたり使い捨てのプラスチック製品を使わないようにしたりするなど、ゴミを減らして環境に悪影響を与えないような生活をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・違う考えをもつ4～5人のグループを作り、司会者を決め、事前に話し合いのすすめ方を説明する。 ・話し合いの仕方や順番をグループ内で確認してから話し合いを始める ・「質問の仕方」を明示し、参考にして質問する。 ・友だちの発表を聞きながら参考になった質問や意見を付箋にメモしながら聞く。
しかける	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分の主張に説得力を持たせるために、どうすればいいのだろうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><具体例を示す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶することで分かり合えたと感じ方があれば、その体験を入れればより伝わると思う。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><反論に対する考えを示す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を守ることが、なぜ平和な未来につながるのか、プラゴミによる海洋汚染に例を示すと、聞く人にとって理解しやすくなる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><根拠を示す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物がなくて困っている人がどのくらいいるのか具体的に数字を示すと説得力が出る。 </div>	<p>研修テーマに迫るために【焦点化】</p> <p>◎自分と違う意見やその根拠を聞いたり、発表を聞いた人の質問に対する反論を考えたりすることを通して、自分の意見文をより説得力をもたせるための方法に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、自分が「なるほど」と感じた言い方やイメージが持ちやすかった資料の引用の仕方を伝えて、全体に広める。
たしかめる	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・この資料ではなく、他の資料の引用した方が分かりやすい。 ・具体的な数字を入れるだけでなく、「何人一人」というように、数をイメージできるような言い方をすると相手に伝わりやすい。 </div>	<p>(評)より説得力のある意見文にするために、話し合いで友だちの意見文に対し質問や助言をしようとする。</p> <p>【話す・聞く】(話し合い)</p>

5 授業の成果と課題

(1) 成果

- 新聞記事をもとに「よりよい未来を」について考えたことで、平和や環境問題、安心安全な暮らしなど、自分なりのテーマをもって調べることができた。それにより、自分がどのように社会と関わったらいいのか、主体的に考えるよい機会となった。
- 自分の考えを裏付けるための資料を集めたり、文の構成を考えたりして、相手に自分の主張をわかってもらおうと工夫した意見文を書くことができた。
- 意見文の構成を色別にして表に表したことで、意見に対する事実が根拠として有効であるか、より説得力が増すような事実はないか、という話し合いの視点が明確になりよりよい意見文にするための論点を絞った話し合いをすることができた。



意見文の構成表



発表を聞いて、よかった点(ピンク)や改善点(水色)を付箋に書いて伝え合う。

(2) 課題

- 自分の興味のあることのみを目に向け、それ以外の事柄への関心が低い子が多いためニュースや新聞記事などに触れる機会を設けるなど、普段から社会的事象に興味を持ち自ら働きかける体験を増やしていきたい。(国語・社会・総合的な学習の時間など)
- 自分の主張を裏付ける根拠となる事実を得るための資料を探す力や、必要な部分を見つけて自分が必要とする情報を得るための力(メディアリテラシー)を育てていく。また、資料の内容を正確に理解し、明確な根拠として示すことができるように、資料の読み取りや効果的な引用の仕方も機会を捉えて指導していく必要がある。
- 話を聞きながら相違点や問題点を見つける力、話し合いの論点について自分の考えをまとめる力を伸ばして、話し合いを通してよりよい考えを作っていこうとする態度と能力を育てていきたい。

6 資料など

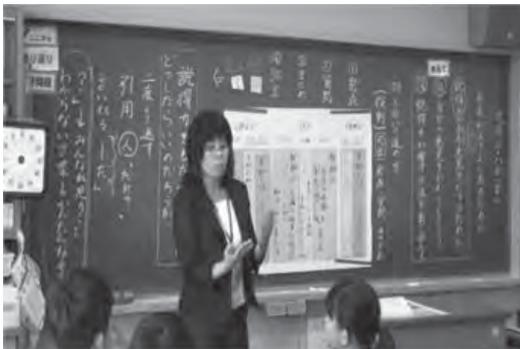
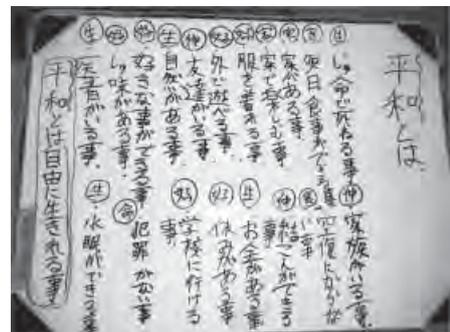
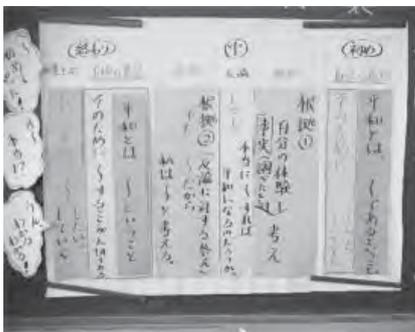
板書



授業の様子 (小グループでの話し合い)



「平和」と何か <話し合い>



◇ 2年間の研究をふり返って

「シティズンシップ」という言葉になじみがなく、それを教育の場でどのように取り入れたらよいのか試行錯誤することから始まった。社会に主体的に関わることのできる社会科や総合的な学習の時間などの比較的取り入れやすい教科と比べ、取り入れることが難しいと感じる教科もあった。しかし、2年間の研究を振り返って、社会の出来事に対して「自分ごと」として関わり、「自分だったらどうするか」と自分に引き寄せて考える力や、多様な価値観をもつ人たちと共生していくために、自分の意見をわかってもらえるように伝える力、様々な考えがある中でお互いに折り合いをつけながらよりよいものを創っていかうとする態度を身に付けることは、どの教科でも必要とされる力だと感じる。

「シティズンシップ教育」として何か新しいことを始めるのではなく、学校生活の様々な場面で、子どもが主体的に動き出す場をつくったり多様性を大切にしたりしよう意識することが、シティズンシップ教育につながることはないか。この場で学んだことや感じたことを、これから周りに様々な場面で広めていきたいと思う。

みしまるくん・みしまるこちゃんをいっぱい知ろう

市民性（シティズンシップ）を育むためには、まず、自分の住む三島市を身近に感じ、より好きになっていくことが重要であると考えました。そこで、三島市公認のゆるキャラである「みしまるくん」「みしまるこちゃん」に焦点を当てることにしました。三島市の良さやこれから守っていききたいことについて考えることを通して、三島市に住む一人として、生活していこうとする態度を育てたいと考えました。

◇ 授業の具体

指導者 横山 貴志（三島市立徳倉小学校）

1 教科・領域

総合的な学習の時間（10時間）

2 学年

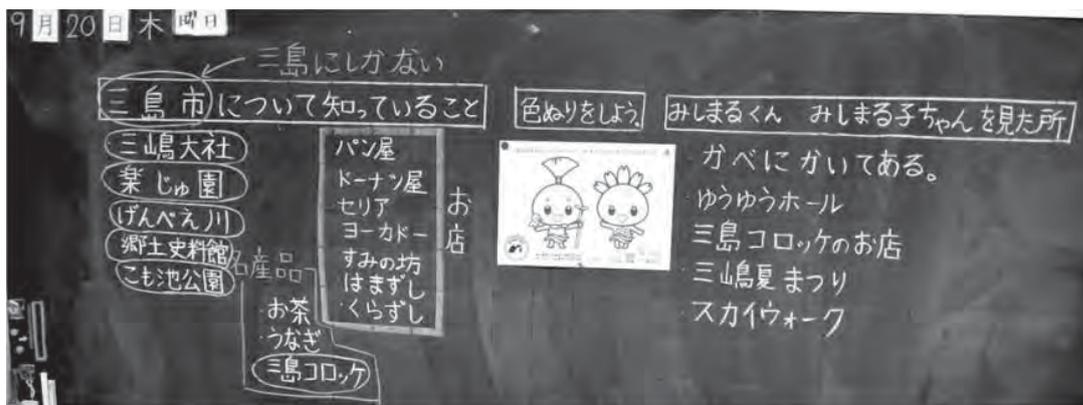
知的特別支援学級 4年・6年

3 単元の目標

自分たちが暮らす住む三島市のゆるキャラみしまるくん、みしまるこちゃんに関心を持ち、ゲストティーチャーの話を聞き、深く知ることを通して、みしまるくん、みしまるこちゃんに込められた願いに気づき、三島市をもっと好きになり、市民の一人として郷土を尊重する態度を育てる。

4 実際の指導

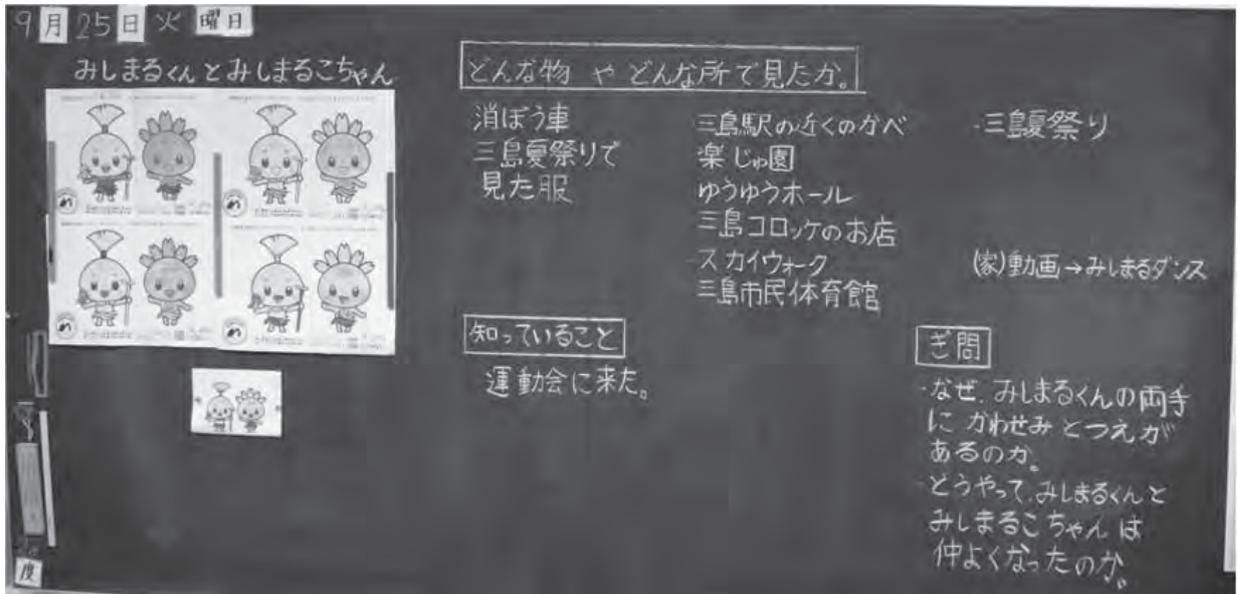
第1時「三島市について知っていることを発表しよう」「塗り絵に挑戦しよう」



単元の導入として、三島市について知っていること、物（名産品）を挙げる活動を行った。この中から、食べ物に関心が高いことが見えてきた。そのため、三島市の名産品「三嶋コロケ」が出てきたところで、三嶋大社と三嶋コロケを売っているお店の近くにある「みしまるくん・みしまるこちゃん」のアンテナショップについて話し、学習をすすめていった。

学習活動	子どもたちの表れ
<p>①三島市について知っていることを発表しよう。</p> <p>②何も見ないでみしまるくん、みしまるこちゃんの塗り絵をしてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イトーヨーカドーがあるよ。 ・三嶋大社があるよ。 ・三島コロッケがあるよ。 ・三島コロッケのお店の近くにみしまるくん、みしまるこちゃんのお店があるよ。 ・みしまるくんは黄色、みしまるこちゃんはピンクだったよ。 ・みしまるくんとみしまるこちゃんの洋服は何色だったっけ。 ・かわせみくんは、確か、青だったよ。

第2時「みしまるくん、みしまるこちゃんについて、知っていることを発表しよう。」



特別支援学級
総合的な学習の時間

2時間目は、何も見ないで色を塗った「みしまるくん」、「みしまるこちゃん」を発表し、正解と比べてみた。子どもたちは、細部までよく見ていたようで、衣服や杖など、正しく塗ることができている子どもが多かった。そこから、「みしまるくん」、「みしまるこちゃん」について知っていることや見た場所を発表した。家で公式動画を見たことある子どももいて、関心の高さに驚いた。

学習活動	子どもたちの表れ
<p>①みしまるくん、みしまるこちゃんの塗り絵を発表して、正解を見てみよう。</p> <p>②みしまるくんやみしまるこちゃんをどんな物や所で見たか発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服は、青だったんだね。 ・みしまるくんが持っている杖は、緑色だよ。 ・みしまるくんのちょんまげは、緑色も混ざっているよ。 ・三島駅の近くの壁に大きく描いてあったよ。 ・ゆうゆうホール（三島市民文化会館）にも描いてあったよ。 ・三島スカイウォークにも描いてあったよ。 ・北小の運動会に来たこともあるよ。

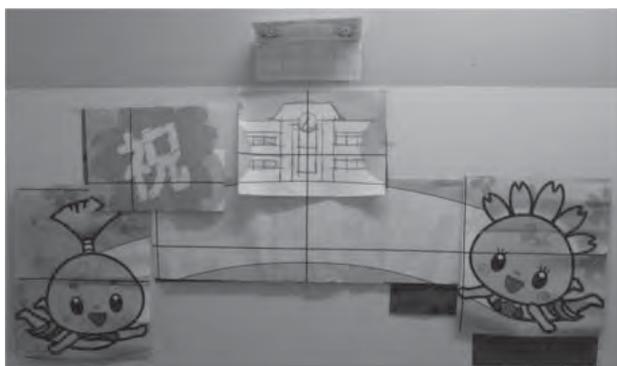
第3時・第4時「みしまるくん、みしまるこちゃんを作った人の話を聞いてみよう」



第3時・第4時で「みしまるくん」、「みしまるこちゃん」をデザインした方をゲストティーチャーとして迎え、みしまるくん、みしまるこちゃんに込められた願いと三島市の特徴の関連などについて話していただいた。

学習活動	子どもたちの表れ
<p>①みしまるくん、みしまるこちゃんを作った人の話を聞こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みしまるくん、みしまるこちゃんの誕生秘話の絵本を見よう。 ○みしまるくん、みしまるこちゃんをデザインしているところを見せてもらおう。 <p>②みしまるくん、みしまるこちゃんのサイコロを作ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みしまるこちゃんのピンクは、ミシマザクラの色だったんだね。 ・かわせみくんは、みしまるくんの相棒だったんだね。 ・みしまるくん、みしまるこちゃんは、三島市をアピールすることが仕事だったんだね。 ・みしまるくん、みしまるこちゃんの「こしみの」には、三島のきれいな水が表されていたんだね。 ・みしまるくん、みしまるこちゃんがたくさん描いてあって、かわいいね。

第5時～第10時「学校の壁にみしまるくん、みしまるこちゃんを描こう」



第5時から、学校の壁にみしまるくん、みしまるこちゃんを描く活動を取り入れた。本学級に在籍する4人中3人が本年度卒業していく。そのため、みしまるくん、みしまるこちゃんの作者にデザインして頂いた卒業式用の絵を描き、色をつけていく活動を取り入れた。この活動では、壁に下書きをする活動は、みしまるくん、みしまるこちゃんの作者と一緒にいった。子どもたちと一緒に活動することで、絵の描き方を教わったり、みしまコロッケのキャラクター「コロモッケ」を付け加えたりするなど楽しみながら活動することができた。特に、コロモッケに

については、三島の話をする中で出て来た話題である。会話を通して、三島について、より深く知っていく良い機会となった。色を塗っていく活動では、子どもたちが中心となって行った。大まかに絵の具で色をつけ、細かいところはペンを使って丁寧に色塗りをしていった。デザインが描かれたこの壁は、11月に撤去されたため、3月まで保管し、卒業式の日教室に飾った。



5 授業の成果と課題

- 三島市のゆるキャラ「みしまるくん」、「みしまるこちゃん」という子どもたちにとって身近な題材を教材化したことで、児童が地域の身近な問題について、「自分ごと」として捉えることができた。
- 特別支援学級の学習の中でもシティズンシップ教育を実践することで、地域に関心を持ち、社会参画への第一歩の学習とすることができた。
- 社会参画を意識した授業という点では、今後継続的に学習をすすめていくことが重要であるため、実践にとりくんでいきたい。

◇ 2年間の研究をふり返って

2年前にシティズンシップ教育研究会に参加するまで、シティズンシップ教育とは、主権者教育・選挙教育であると思っていた。そこから、2年間の研究や授業実践を通して、シティズンシップ教育を大きく捉えることができ、それに対する理解も深めることができた。地域をはじめとした身近なことを「自分ごと」として捉え、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、判断し、行動しようとする態度を育てていくことがシティズンシップ教育の第一歩であると思っている。これは、以前からも各教科の学習の中で行われていたことでもある。私自身、2年間で特別支援学級と通常学級の担任を経験し、それぞれの学級で実践を行うことができた。特別支援学級での実践では、三島市のゆるキャラを選択したことで、子どもたちの意欲を高めることができた。そこから、「みしまるくん」、「みしまるこちゃん」だけでなく、三島市について深く知ろうとする姿が多く見られたことは大きな成果であった。特別支援学級におけるシティズンシップ教育に関する実践がほとんどないため、引き続き、研究を重ね、様々な実践をしていくことが課題であると考えている。

お得なプランを提供しよう

対象の生徒たちは、成人年齢が18歳に引き下げられる年代である。そのため、家庭科の授業においても、消費生活について「自分ごと」として捉えて学習をすすめている。家庭科の学習と合わせて、数学においては、携帯電話（スマートフォン）の料金プランを選択する授業を実践した。現在、携帯電話（スマートフォン）を使用していない子どものほうが少なく、子どもにとって興味をもってとりくめ、「自分ごと」として考えやすいと考えた。

◇ 授業の具体

数学科学習指導案

指導者 河本 章衣（浜松市立曳馬中学校）

1 教科・単元名 数学「1次関数の活用」

2 学年 中学校2年

3 単元の目標

(1) 1次関数に関心をもち、その特徴を表、式、グラフなどを使って調べようとする。

【数学への関心・意欲・態度】

(2) 1次関数の特徴を比例と関連づけて考察したり、問題解決のために1次関数や2元1次方程式のグラフを活用したりすることができる。

【数学的な見方や考え方】

(3) y 軸上の切片や傾きをもとにして1次関数のグラフをかいたり、グラフから1次関数の式を求めたり、2元1次方程式のグラフをかいたりすることができる。

【数学的な技能】

(4) 関数や1次関数の意味、1次関数の変化の特徴やグラフの特徴を理解することができる。

【数量、図形などについての知識・理解】

4 本時の指導

(1) 本時の目標

既習事項を用いて、表や式、グラフを活用し、より適切なプランを提供することができる。

【数学的な見方や考え方】

(2) 学習過程 (2 時間)

① 1 / 2 時間

学習活動	●指導上の支援及び留意点 ○評価の観点
○1次関数の表、式、グラフの特徴を確認する。	●1次関数の表、式、グラフの特徴を簡単にまとめて、次につながるようにする。
お得なプランを提供しよう。	
<p>○課題を把握する。 (電話料金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話 3つのプランを理解する。 ・データ通信 3つのプランを理解する。 <p>○それぞれの料金プランを表、式、グラフで表す。</p> <p>○各自が作成した表、式、グラフを使って、プランの特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通話料金は30分まではAプラン、30～90分まではBプラン、90分以上はCプランがお得。 ・データ通信は動画を見る人は料金を気にすることなく使えるγプランがお得。 <p>○次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、各班が店舗となって携帯電話のプランを提供する。 ・前半、後半の役割分担をする。 ・店名を考える。 ・店員ではない人は、お客として店舗を訪れる。 	<p>●電話料金の仕組みを説明し、通話料金とデータ通信料の2つがあることを理解させる。</p> <p>●1Gで見ることができる動画の時間をおおよそ伝える。～○以下の説明を丁寧に行う。</p> <p>●すすんでいない生徒には、表から埋めていくよう助言する。</p> <p>●次回、店員になってもらうので、全員が説明できるようになっておくよう伝える。</p> <p>○表、式、グラフのいずれかを活用して、プランの特徴を説明することができる。</p> <p>●バランスのとれたグループ分けをするよう助言する。</p>

<プラン>

通話料金

Aプラン	基本料金 1,000円	1分あたりの通話料 20円
Bプラン	基本料金 1,600円	1分あたりの通話料 50分間無料 50分を超えると、1分あたりの通話料 30円
Cプラン	基本料金 2,800円	でカケホーダイ

データ通信

αプラン	
0Gから1G以下	……3,000円
1Gより多く3G以下	…4,000円
3Gより多く5G以下	…5,000円
5Gより多く20G以下	…7,000円
βプラン	～20G以下 6,000円
γプラン	～30G以下 8,000円

1ヶ月の電話料金 = 基本料金 + 1分あたりの通話料 × 通話時間 + データ通信料

② 2 / 2 時間

学習活動	●指導上の支援及び留意点 ○評価の観点
<p>○与えられたお客情報を確認する。</p> <p>○グループになり、どのようなお客が来て、どのプランを提供したら良いか作戦を練る。</p>	<p>●それぞれの役割を確認し、自分がどういう立場の人は理解するよう促す。</p> <p>●各班にあるお客情報は全部ではないが、参考として考えるよう伝える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お得なプランを提供しよう。</div>	
<p>○前半、後半に分かれて、お得なプランを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客役は12種類のお客情報を元に、店舗を訪れ、プランを提供してもらう。 ・店員側は立場や状況を踏まえて、対応する。 ・店員側 お客様の情報を聞き、プランを提供する。 ・お客側 自分がどのように携帯を使いたいかを伝える。 <p>○振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの店舗にも同じプランを提案された。 ・店舗によって提案されるプランが違った。もしかして、損をするプランを提案されたのかな。 ・店員として提供するの難しかった。 	<p>●お客側には、より多くの店舗へ行き、提案されたプランの比較ができるようにする。</p> <p>●店員側には、情報をよく聞き前回の行った授業を元にお得なプランを提供するよう伝える。</p> <p>●各店舗から提案されたプランを比較してみるよう伝える。</p> <p>●身のまわりには、1次関数として表されるものがあることを確認する。</p> <p>●将来、自分に適したプランを選択できるようにしていくことが大切であることを伝える。</p>

<お客側の役割>

<p>会社員 仕事で使うため、毎月2時間以上電話をする。仕事が忙しいため、動画は見ないのでほとんどデータ通信は行わない。</p>	<p>会社員 仕事はメールでやり取りするため、電話は毎月1時間程度 ネットで調べものをする事が多いため、余裕をもって使えるようにしたい。</p>	<p>会社員 毎日仕事で電話をする。(毎月3時間程度) ネットなどは月によって使用するが異なる</p>
<p>孫がいるお年寄り 電話は子供や孫からかかってくるだけ 調べ物も動画も見ない</p>	<p>中学生 電話はしない 動画を見たり、ゲームをしたりして、毎月余裕をもって遊びたいが、使いすぎると怒られる。</p>	<p>主婦・主夫 電話は毎日1分程度 料理をするため、動画をみる事が多い</p>
<p>学生 毎日のように、1時間以上電話をする。動画1時間以上見たり、容量のかかるゲームを毎日する。</p>	<p>学生 電話は全くしない 毎日、YouTubeやゲームをする。</p>	<p>ユーチューバー 電話は月1時間 動画は毎日見たり、編集したりする。また、SNSも長時間する。</p>
<p>小学生 電話はしない お母さんに許されている時間だけゲームができる。毎月1G程度</p>	<p>会社員 仕事はメールでやり取りするため、電話は毎月1時間程度 ネットは使わない</p>	<p>主婦・主夫 家族と連絡をとるが、毎月30分以下 月によって、調べ物をしたり、動画を見る時間が異なる</p>

(3) 授業の様子



1 時間目 グループ



2 時間目 作戦タイム



2 時間目 全体の様子



2 時間目 店舗の様子



2 時間目 お客様情報を伝える



2 時間目 プラン提供

(4) 成果と課題

【成 果】

- どの生徒たちも、意欲的に課題にとりくむことができた。携帯電話がテーマであったことで、自分ごととして考えることができたと思われる。数学が苦手な生徒でもグループで活動することで、得意な生徒がアドバイスし活動にとりくむことができた。「将来スマホを買うときに活用したい」「4年後できるだけ安い店を見つけるようにしたい」など、今後も問い続ける姿勢につながったと思われる。
- プランを提供する中で「どのプランを提供したらよいか迷った」「客の携帯の使い方プランを選ぶのは案外難しかった」と様々なお客様がいる中で、お得なプランを提供することの難しさを感じ、それぞれの立場の違いも理解できたと思われる。
- 「1次関数がこのように利用できることに驚きました。」「1次関数を知ればいろいろなところで生かせることを知った」と、数学が身の周りに活用されていることを実感でき、苦手な関数の学習に意欲的にとりくめたと思う。

【課 題】

- 関数の活用としては、表、式、グラフの3つを活用して解決していきたいが、今回は表とグラフを配布したため、式で解決した生徒は1人もいなかった。時間的な余裕があるようならば、初めは式で考え、途中から表、グラフを使っていくようにできるとよかった。

◇ 2年間の研究をふり返って

この研究を通して、物事を自分事として考える大切さを学びました。また、生徒にとっても自分事として考えることで、授業へのとりくみ方も変わってくることを実感しました。生徒にとって苦手意識の高い数学においても、このシティズンシップ教育を取り入れ、生徒が生き生きとして活動できる場としていきたい。

2050年に店舗数、利益 No. 1のコンビニをプロデュースしよう

「2050年のコンビニをプロデュースする」という課題は、現代社会の特色であるグローバル化、情報化、少子高齢化がすすむと今後どのような世の中になるかを問い、社会に参画する学習につながると考えました。また、それぞれの事象を多面的・多角的に考えることや、グループで互いに意見を交わしながら活動したり、評価しあったりすることで、多様性を尊重し、他者と関わりながら共に成長できると考え本実践にとりくみました。

◇ 授業の具体

社会科学習指導案

指導者 丹所明日香（菊川市立菊川西中学校）

1 単元名 現代社会と私たちの生活

～ 2050年に店舗数、利益 No. 1のコンビニをプロデュースしよう～

2 単元目標 単元の目標

- (1) コンビニプロデュース案の作成を通して、自分たちが生きる現代社会に関心を持ち、持続可能な社会を形成するために何が大切かを考える。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 地理的分野や歴史的分野の学習内容と関連させながら、現代社会の特色について、多面的・多角的に考察する。 【社会的な思考・判断・表現】
- (3) コンビニプロデュース案の根拠となる、グローバル化、情報化、少子高齢化の影響を複数の資料から読み取る。 【資料活用の技能】
- (4) グローバル化、情報化、少子高齢化が互いに関連し合いながら、政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。 【社会的事象についての知識・理解】

3 本時の指導（6／8）

(1) 本時の目標

コンビニプロデュース案をつくることを通して、グローバル化、情報化、少子高齢化などの現代社会の特色を追究し、それらの影響や関連性などについて関心をもつことができる。 【関心・意欲・態度／ワークシート】

(2) 指導過程

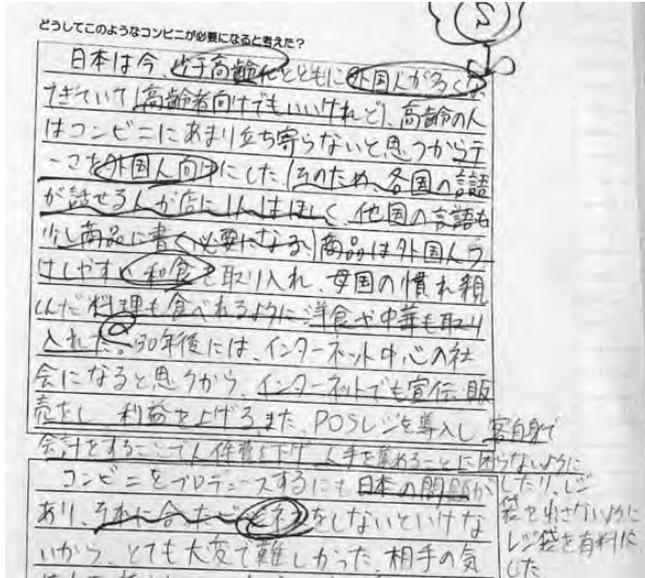
段階	学習活動 (○生徒の表れ●教師の活動)	・留意点 ☆支援 ◎評価
<p>つかむ</p> <p>考える</p> <p>たしかめる</p>	<p>●現代日本にはどのような特色があるのだろうか</p> <p>○少子高齢化、グローバル化、情報化</p> <p>┌──────────────────────────────────┐ └ 30年後の日本はどのような社会になっているだろうか。 ┘</p> <p>○外国人労働者が増える ○外国文化流入</p> <p>○70歳まで働く ○労働力不足</p> <p>○若者の負担大</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2050年に店舗数、利益No.1のコンビニをプロデュースしよう</p> <p>○少子高齢化がすすみ、若者の負担が大きくなる。働きづめで大変になるから癒やしを与えたい。</p> <p>○仕事と介護を両立させないといけないから、スマホで予約、店頭で受け取れるようにしたらいいのではないか。</p> <p>○少子高齢化がすすむから、情報機器を駆使して少人数で仕事を成立させるようにした。</p> <p>○グローバル化がすすむので、スマホでかぎすだけで翻訳してくれるプライスカードを導入しよう。</p> <p>○外国人労働者が増えるので、故郷の味を楽しめる食品を置いてみよう。</p> <p>○過疎地域に一人暮らしの高齢者が増えるから宅配サービスを取り入れてみよう。</p> <p>●ふりかえりカードに思ったことを書こう</p>	<p>・既習事項、単元のふりかえりをする</p> <p>・近くの人と話す</p> <p>・個人の作業をワークシートに記入させる</p> <p>☆「少子高齢化がすすむとどんな社会になるか考えよう」と個別に支援する。</p> <p>◎コンビニプロデュース案をつくることを通して、グローバル化、情報化、少子高齢化などの現代社会の特色を追究し、それらの影響や関連性などについて関心をもつことができる。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度 ／ワークシート】</p>

4 授業の成果と課題

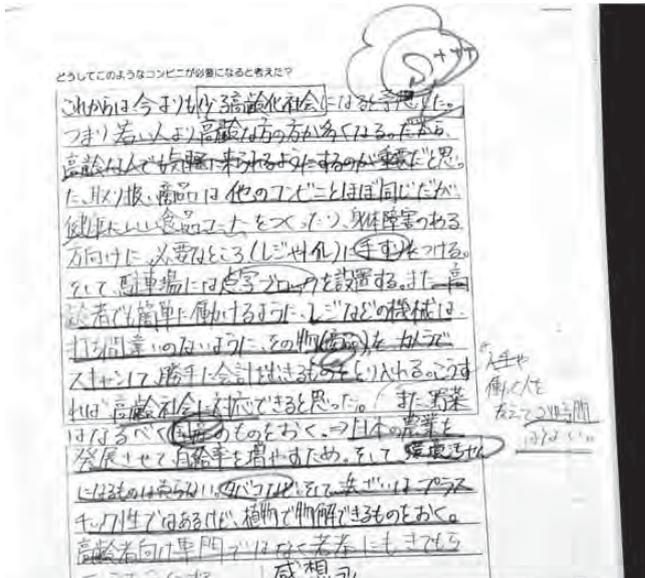
- ・2050年というまだ誰も体験したことのない未来のことを考える課題を設定したことで、将来の社会の姿を自分ごととしてとらえ、真剣に考える姿が見られた。本校では、本年度より①教科書レベルを超える魅力的な課題、②本質的で具体的、かつシンプルな課題、③「やってみたい、なぜだろう」と思わせる学ぶ価値のある課題のことを【ジャンプの課題】として取り入れ、『学び合い』をすすめている。シティズンシップ教育を推進するためにも、このような『学び合い』は効果的であったと考えられ、すすめていきたいと思った。
- ・コンビニプロデュース案を考えるにあたり、グローバル化、情報化、少子高齢化などの事象を、資料の読み取りだけでなく資料から読み取ったことを深めることができた。

- ・シティズンシップ教育をすすめるにあたり、小集団活動を基本とした活動をメインとした。お互いに意見を交わしながら活動したり、お互いの意見を評価したりすることで、多様性を尊重し、他者と関わりながらともに成長することができたと考える。以下の資料は、そう考えた根拠となるワークシートの記述である。

5 資料等



グローバル化のことを考えたコンビニをプロデュースした子どもの案である。取扱商品に外国の言語のプライスカードをつけるだけでなく、母国の慣れ親しんだ味を楽しめるようにした。また、情報化のことも関連づけている。環境問題にも配慮できていることがうかがえる。……多様性の尊重



高齢者の人口が増えることを予想して、情報機器をうまく活用しながら、高齢者が住みやすい世の中にしたと考えている。また、グローバル化が進み日本の食糧自給率が低下することを予想して、国産のものを店に置く工夫をした。……多様性の尊重

評価項目
①そのコンビニで買い物をしたいか
②そのコンビニで働いてみたいか
③環境に配慮しているか
④資源を無駄にしていないか
合計 20点 × 4人 (4人の小集団編成)

「2050年に活躍・科目No.1のコンビニ」をプロデュースしたのは誰?

自己評価	5 とても得意	4 得意	3 まあまあ	2 まあ	1 あまり得意でない
コンビニ経営について					
① そのコンビニで買い物をしたいか					
② そのコンビニで働いてみたいか					
③ 環境に配慮しているか					
④ 資源を無駄にしていないか					
①～④の合計点					①～④の合計点、授業からの成績を合計すること
	20				

感想

2050年、私たちが一体どんな世の中になっただんな社会になっているのかなと思いました。その流れに合わせてどんなものが必要なのか変わってくるということまで考えられている。

2050年、私たちが一体どんな世の中になっただんな社会になっているのかなと思いました。その流れに合わせてどんなものが必要なのか変わってくるということまで考えられている。

2050年、私たちが一体どんな世の中になっただんな社会になっているのかなと思いました。その流れに合わせてどんなものが必要なのか変わってくるということまで考えられている。

自分でコンビニを考える時、今の社会にありと便利
 にも考えました。今はカードやスマホで会計する
 人も増えているから、何か考えると、50年後はもっと
 すごいことになって、いろんなサービスがあると思います。今でも
 少子高齢化で国が困っているのを、介護で疲れてしまう人がたくさん出てきてしまうと思った・・・略
 と今のことと将来のことと考えている。……問い続ける子ども

(左) 2050年は一休どんな世の中になっただんな社会になっているのかなと思いました。その流れに合わせてどんなものが必要なのか変わってくるということまで考えられている。

(右) 50年後はもっとすごいことになっているんだろうなと思いました。今でも少子高齢化で国が困っているのを介護で疲れてしまう人がたくさん出てきてしまうと思った・・・略 と今のことと将来のことと考えている。……問い続ける子ども

発表をきいていて、お年寄りに合った食べ物や場所、子供向けなどがたくさん聞けたことがうれしかった。

発表をしていて、みんながうなづいてくれているのが、本当に嬉しかった。

発表をしていて、みんながうなづいてくれているのが、本当に嬉しかった。

他の人の意見をきくと、太陽光発電、とか英語での表記、とか、国内のサービス、など、私たちが考えた以上に、たくさんアイデアがあった。1つ1つにこだわると、いろんなサービス、とか、英語で商品名をかく、っていうのが、いいアイデアだなと思った。

小グループ活動で発表、評価をすることでお互いのよさに気づくことができた。……他者と関わりながら、共に成長する子ども

◇ 2年間の研究をふり返って

今回の研修に参加させていただき、多くのことを学ぶことができた。子どもたちはこれからの時代を生きていくために必要な考える力や議論する力を身につけることができたと思う。また、社会科の公民的分野だけでなく、さまざまな教科の先生方と研究を続けることで、教科の枠組みにとらわれないとりくみができることに気付くことができた。さらに、小学校でのとりくみを聞くことによって、中学校ではこんなとりくみができることに気付けたことも大きな成果である。

しかし、シティズンシップ教育はまだ知名度が低い。これからは、日頃何気なくやっていることがシティズンシップ教育につながるのだと価値付けながらこれを広めていきたいと考える。

2年間の研究をふり返って

1 「シティズンシップ教育研究委員会」の立ち上げと研究内容

シティズンシップ教育と言われても、組合員のみなさんにはなじみが薄いものだと思います。学校では、国際理解教育、キャリア教育と言う名の〇〇教育はたくさんありますが、職員室でシティズンシップ教育と言う文言を聞くことはめったにないと思います。

2015年6月に公職選挙法が70年ぶりに改正されました。この改正によって選挙権年齢が従来の20歳から18歳に引き下げられました。このころ、2016年夏の参議院選挙に向けて、主権者教育が注目されマスコミ等によるニュース、報道が盛んに行われました。文部科学省は、2016年夏の参議委員選挙で投票権を有する高校生のために、「私たちが拓く日本の未来 一有権者として求められる力を身に付けるために一」という指導資料を作成し、その浸透を図りました。

教育研究所は、こういった国、社会の動きに注目するとともに、当時の安倍総理の政権運営についての健全な批判的議論をもとに、めざしたい社会を『民主主義、平和主義、人権が価値として優先され、一人一人が民主主義、平和、人権の尊重を担い、実践する主人公という意識をもった市民によって創られる社会』と押さえ、こういう市民を育てるためには、シティズンシップ教育が必要ではないかという結論に至り、2018年にシティズンシップ教育研究委員会を立ち上げました。

教育研究所は、シティズンシップ教育とは何か、シティズンシップ教育のねらいは何かについては、研究委員会内での議論、関係の研究会への参加、専門家の講話等を通して下記のように押さえ、様々な教科や領域においてシティズンシップ教育の授業実践にとりくみました。

シティズンシップ教育とは

国や社会の出来事や問題を自分のこととしてとらえ、相手の立場や多様性を尊重し尊重しつつ、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する能力や態度を育てる教育

シティズンシップ教育のねらいとは

民主主義、平和、人権が価値とされる市民社会を創る主役であり担い手である市民を育てること

※教育研究所が押さえるシティズンシップ教育の詳細は2018年3月に発行した教育研究所所報No.156にありますので、参考にしてください。

2 実践と考察

7人の所員による2年間の授業実践は次のとおりです。

・国語…1本

自作の意見文を公表し、自分の意見と比べたり、友だちに対する質問や助言を伝えたりして、よりよい未来のために自分に何ができるかを考える授業でした。国語科の学習を通して主体的に社会と関わろうとする態度と互いの考えを理解しあうことができる力の育成をねらいとした授業であり、国語科によるシティズンシップ教育の実践でした。

・社会…6本

小学校では「市の移り変わり」「くらしとごみ」「水はどこからどこへ」など身近な地域や市町の環境を取り上げて「自分ごと」としながら、問題を見つけて解決の方法を話し合い、自分ができることは何かを考えるという実践でした。この実践は、身近な地域や社会にアプローチし体験活動も含めて学ぶということなので、ある意味では学びの内容と学び方の両方がシティズンシップ教育と言えるのではないかと思います。中学校では、子どもたちが社会

人として生活する 2050 年の日本社会を予想し、子どもたちの身近にあるコンビニエンスストアをプロデュースするなど、社会のありようについて主体的に考えてとりくむ課題を設定したとりくみでした。

• 数学… 1 本

一次関数のグラフが実際の生活の中で活用されていることを携帯電話の料金プラン表から学び、携帯電話会社の店員という立場で社会の状況や人々の願い、ニーズ等に応じた料金プランを考え提案するという実践でした。社会の状況、人々の願い等を考えることは、改めて自分以外のことを考えることになり、数学科としてのシティズンシップ教育の実践例の一つと言えるのではないかと考えます。

• 家庭… 1 本

栄養バランスのよい食事（給食）を考える中で「被災地復興」というテーマを設けて被災した人たちを応援する献立を考える実践を行いました。【研究所レポート Vol.55 参照】

• 総合的な学習の時間… 5 本

総合でも、1 年目の研究を踏まえて全体構想や内容を更に研究して、実践した所員もいました。小学校では、ゆるキャラを通して市のことを学ぶ実践や様々な人と関わりながら福祉について考える実践などが行われました。中学校では、より良い市にするために、市の事を学びながら課題を見つけ、解決策を考えて提案する実践がありました。

3 実践研究を通して見えてきたこと

(1) 様々な教科・領域を通してシティズンシップ教育を

所員の授業実践を通して、大きく分けて「教材そのものがシティズンシップ教育となるもの」と「学び方の工夫によってシティズンシップ教育につながるもの」の 2 種類があるのではないかとわかりました。例えば小学校の社会科で、4 年生で地元の学習することや 6 年生で政治の仕組み等を学習すること、中学校社会で公民の分野の学習することは、学びの内容自体がシティズンシップ教育だと言えます。

他方、総合的な学習の時間に地域のことを地域に出て体験的に学ぶことは、学び方としてシティズンシップ教育だと言えます。また、学級会において、学級の問題を「自分ごと」としてとらえ、多様な意見を出し合い、解決の方法を話し合ったり、みんなで実行したりすることも学び方としてのシティズンシップ教育の一つです。言い換えれば、シティズンシップ教育は、様々な教科・領域で実践することが可能です。教科横断的などとりくみもできます。新しく何かを始めるということではなく、これまでの教育活動をシティズンシップ教育の視点で捉え直し、整理することがシティズンシップ教育の実践に繋がっていきます。

(2) 未来に生き、未来を拓く子どもたちを育てるという自覚と意識と発想を

子どもたちが生きるこれからの社会は、生活上の利便性は高まるものの、今までには考えられないような、まさに予測困難な様々な問題が複雑に絡み合う難しい時代ではないかと思えます。今問題になっている気候変動の問題や格差、飢餓・貧困等の問題は、地球的規模で問題に向かうことが求められ、そのためには子どもたちは、地球に生きる地球市民としての資質や能力、態度を身に付けなくてはならないと思えます。シティズンシップ教育は、その一翼を担っているともいえるのではないのでしょうか。学校現場にいますと、こういうことへの意識や関心が薄れがちですが、教育現場を預かる私たちから始めなくてはならないと思えます。私たち教職員自身に、シティズンシップをもった市民の一人としての自覚と意識が求められます。

シティズンシップ教育研究委員会（2018～2019年度）

共同研究者

井柳 美紀（静岡大学 教授）2018～2019

三浦 哲司（名古屋市立大学 准教授）2018～2019

所 員

河本 章衣（浜松教組）2018～2019

水谷 光里（田方支部）2018～2019

横山 貴志（三島支部）2018～2019

永井 咲季（駿東支部）2018～2019

中村 佳子（志太支部）2018～2019

丹所明日香（小笠支部）2018～2019

寺田 祐基（湖西支部）2018～2019

事務局

大石 茂生 2018～2019

小野 佳貴 2018

佐野 友美 2019

赤堀 真人 2018～2019

静岡はつ（発・初） シティズンシップ教育授業実践集

～自ら考え、自ら判断し、自ら行動する子どもたちを育てるために～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「シティズンシップ教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発 行 者／教育研究所運営委員長 鈴木伸昭

発 行 日／2020年1月

<http://www.stu.jp/>

最後までお読みいただきありがとうございました。この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所
FAX: 054-255-5110
Mail: sier@stu.or.jp (ご意見専用研究所メールアドレス)

